香美市立美術館 アートの窓

舟越桂展

10月1日（土）～12月18日（日）

▲「遠い手のスフィンクス」2006年
楠に彩色　高橋コレクション　photo：内田芳孝

国際的に活躍する彫刻家・舟越桂の最新作を含む彫刻と、ドローイングの作品約30点を紹介する**舟越桂展**を開催します。

1951年、岩手県盛岡市生まれの舟越桂は、東京造形大学彫刻科を卒業後、1977年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了しますが、学生時代にトラピスト修道院から聖母子像を頼まれた際、先生から素材に楠を使うよう勧められたことが、その後の木彫人物像につながっていると言います。

80年代初めからは、楠に彩色し、大理石の目をはめ込んだ精神性の高い人物像を制作し、1988年の**ヴェネチア・ビエンナーレ**、1989年の**サンパウロ・ビエンナーレ**、1992年の**ドクメンタⅨ**（ドイツ）などの国際展で高い評価を得てきました。

2003～04年、東京都現代美術館を含む国内6カ所の美術館で大規模な回顧展を開催し、2008年には東京庭園美術館で**舟越桂 夏の邸宅 アール・デコ空間と彫刻、ドローイング、版画展**、2010年には金沢21世紀美術館で**ヤン・ファーブルとの二人展**などが開催され好評を博しました。

今回の展覧会では、1979～80年制作の**妻の肖像**から始まり、90年代初めまでの着衣半身像、その後の多様な展開を経て、より自由な表現を求めた2000年からの裸体像、2006年に制作された高貴なまでの深いまなざしをたたえた**遠い手のスフィンクス**、新作のブロンズ像など「人間の生きていく姿を立体の作品にしたい」と語る舟越桂の魅力溢れる作品が並びます。また、力強いドローイングも見ごたえがあります。今年6月に紫綬褒章（しじゅほうしょう）を受章された彫刻家・舟越桂の素晴らしい作品を、多くの皆さまにご覧いただきたいと思います。ご来館をお待ちしております。

（館長・北　泰子）

吉井勇記念館だより

山里ミニコンサート　10月22日（土）14時～15時

童謡を楽しむ会の皆さんと一緒に、楽しく歌いませんか。

島崎照代さん（メゾソプラノ）を講師に迎え、長井薫さんのピアノ伴奏にのせて、なじみ深い日本の曲を披露します。

また、吉井勇作詞の**ゴンドラの唄**や**わが涙**なども、お聞きいただけます。

【場所】 吉井勇記念館
※参加費無料
【講師】 島崎照代さん（日本演奏連盟会員、高知音楽協会代表、女声合唱団リングライン指揮者。土佐山田町在住）
【合唱】 香美市童謡を楽しむ会
【問い合わせ先】 吉井勇記念館
☎58・2220

菊花展　11月2日（水）～11月7日（月）終日

香美市在住の菊愛好家が丹精込めて育てた菊花を展示します。大輪菊を中心に、色鮮やかな菊花が、皆さんをお迎えします。

また、菊にちなんだ勇の短歌をはじめ、秋を感じさせる作品を展示していますので、秋の風情を感じに、ぜひご来館ください。

【場所】 吉井勇記念館敷地内

■**喫茶コーナー**

菊花展開催中の日曜日に、地元のお茶を楽しんでいただけます。一息ついて、ゆっくりと菊花を観賞してください。

【日時】 11月6日（日）10時～16時
【料金】 無料
【問い合わせ先】 吉井勇記念館
☎58・2220

香美市文芸 風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

流燈の浮かぶ湖水や峡の風　楮佐古きよ
起きあがりこぼし何時かは梅雨に臥す　福留とものり
弥太郎の生家に立つや雲の峰　山﨑　貴子
少しでも自然の風で昼寝する　臼井　幸子
燃え尽くるゴッホのここに葉鶏頭　森本　幸美
群れて飛ぶ燕が友の耕耘機　山﨑　寿美
空家にも高砂百合の花ざかり　坂本美智子
建前の槌音響き梅雨上る　岡田美代子
真夜中の闇の深きにちちろ虫　北村千鶴子
鹿の子百合咲けば植えにし人思う　有澤　春江
夏の日の糊の効きたるシーツかな　千頭　野草
空蝉の背の断ち傷に山気しむ　森本　純喜
病む妻と夏を乗り切り趣味の句歌　高野　和一
露草の花の大群里の朝　小原　景守
藷苗植う俄かに雲の広がれば　小原　子川

◆かがみ野俳句会◆

青柿に風の通ひ路ここにあり　佐竹　洋子
節電の団扇バタバタ婆一人　佐藤　幸
平和への願ひは遠し敗戦日　利根　弘子
水銀のじわじわ昇る蝉時雨　古川　信子
かをり満つ稲穂豊かな夜明けかな　小松　愛子
無住寺の人恋しくて夜の蝉　中澤　美晴
目で結ぶ星の三角流れ星　山崎　鈴子
育ち過ぎを言ひつつ胡瓜賜りぬ　吉田　芳

◆韮句会◆

八月は慟哭の月鶴を折る　公文　春紀
またひとつ増えし薬や秋暑し　岡本かほる
鳳仙花咲かせ裏町しづかなり　高橋　章
豊作を風の占う稲の花　明石ゆきゑ
扉に縋る空蝉堂の錠固し　北村　幸子
蜩や橋を渡ればダムの町　西川　常夫
梵鐘の陰々として秋の蝉　甲藤　卓雄
下駄履きて夏のをはりの志那祢さま　國澤　英
鐘一打余韻の中の法師蟬　野崎　典子
秋暑し寄附金付きの切手買ふ　北村　里子
子の荷物送りし朝の稲の露　小野川順子
背丈越す雑草畑秋暑し　前田　芳子
刀豆の収穫近し味噌漬けに　中内ゆかり
百姓に絶へし足半稲の花　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

子に遺す上田五枚早稲を刈る　乾　真紀子
万緑や同姓多き邑に住む　奥宮さとみ
新涼や優しき嫁に支へらる　黒岩　幸女
帰省子に明治の家の揺れやまず　黒岩千英子
ねんごろに返し返して梅を干す　小松　完
夕づきて高砂百合の庭となる　小松　隆之
山家の灯点りてもなほ法師蝉　小松　昇
涼しさの道を選びて朝散歩　杉山　春萌
チイと夜の蝉鳴きて闇深くなる　野村　里史
べふの温泉にふぐり泳がせ暑気払い　前田　欣一
ひと夜さを咲きし夜明けの曼陀羅華　前田　秀女
新涼や当地名代の豆腐あり　間崎　和代
甲虫飼ふて母にも触れさせず　森本　之子
焼け螺子の飛び出る如し揚花火　山崎かずみ
濡れ縁の鄙びて白し萩の庭　山中　晶子
ポケットに金を詰め込む星月夜　山中　瑞輝
朝涼のラヂオ体操児の減りぬ　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

老兵の手旗信号出水川　明石　韮生
十六豇豆昭和しゅるしゅる焼夷弾　橋本　昭和
「ヌッ」と来て内を窺ひ鬼やんま　大石　邦男
法師蟬ただ老懶の日日の過ぐ　中沢としみ
ずぶ濡れの少年がゆく祭笛　安丸　槙子
昨日見て今日も見にゆく青胡桃　森田　菊恵
「すいとん」の記憶つれづれ終戦日　前田　小夜
鶏頭の上に家あり水の音　前田美智子
予岳寺に眠る父母遠ひぐらし　前田　三郎
珈琲に匙を沈めてモダンジャズ　樫谷　雅道
旅急かす乗換え駅の蝉の声　田村　一翠

今月のキラリ✦

流燈の浮かぶ湖水や峡の風

湖水祭での収穫句。一日の仕事を終えてくつろいだ身に湖面を渡ってくる風がここちよい。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】 〒782−8501（住所記載不要）総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
FAX 53・5958